



中部大学

江戸の 牡丹 芭蕉

2024 中部大学民族資料博物館 秋季企画展

会期／2024年

10月15日(火)

12月20日(金)

平日9時30分～16時30分(入場無料) ※入場は閉館の30分前まで

主催／中部大学民族資料博物館

企画協力・学術監修／岡本 聡(中部大学 人文学部教授)

協力／中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

会場／中部大学民族資料博物館(附属三浦記念図書館2階)

ブームと

関連催事

① 講演「江戸の牡丹ブームと芭蕉」

講師—岡本 聡(中部大学 人文学部教授)

司会—中野 智章(中部大学民族資料博物館 館長／国際関係学部長・教授)

日時—10月25日(金) 14時より

会場—多目的室(中部大学民族資料博物館 内) ※事前申込不要

※車での来校を希望される場合は事前に下記までご連絡をお願いいたします。

② ギャラリートーク

中部大学大学院国際人間学研究科／樗木 宏成さん(人文学部 岡本研究室所属)

日時—11月8日(金) 11時15分より

会場—企画展会場内 ※事前申込不要

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

[開館時間]9:30～16:30(入場は閉館の30分前) [入場料]無料

[休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日(行事開催日は開館予定)

日

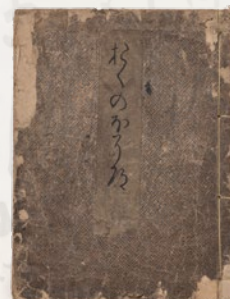
本の俳聖、松尾芭蕉（1644-1694）が、江戸から東北、北陸、美濃（現在の岐阜県大垣市）を旅して紀行文「おくのほそ道」を記したことはよく知られています。そうした吟行の旅路は、当時の「もの」や「情報」の収集にも大きく貢献していました。元禄年間の日本では、唐の時代に匹敵するほどの空前の鑑賞用の「牡丹」ブームが巻き起こりました。「おくのほそ道」の旅の後、芭蕉は、伊勢津藩主の一族にあたる藤堂良長（江戸中期の武士・俳人／俳号「探丸」）から「茂庵」「くらはし」「なびか」という最高級の「牡丹」品種の収集を依頼され、自身の門人のネットワークを活用して使命を果たしたことが弟子たちに宛てた書簡からうかがえます。本展示では、この「芭蕉」と「牡丹」の関係性に新たに着目し、江戸時代の「流行」を通して、芭蕉やその門人たちの活発な活動の様子を描き出します。

主な展示資料は、元中部大学人文学部教授の岡本勝（1938-2007）の古典籍コレクション（通称「岡本文庫」）を中心とした、俳諧に関する書簡や書籍です。会場では、江戸時代の版本をご覧いただくとともに、人文学部の岡本聡研究室に所属する学生たちが制作した、俳諧の「連句」作りの仕組みを紹介するアニメーション映像も放映します。

「岡本文庫」は、岡本聡（中部大学人文学部教授）の実父、岡本勝（1938-2007）「近世俳諧・愛知教育大学名誉教授」元中部大学人文学部教授が収集した、2000点を超える近世文学関連の古典籍からなるコレクションです。岡本勝は「芭蕉西鶴とその周辺」が自身の研究のテリトリーと公言し、本居宣長（1731-1801）や国学を対象とする「鈴屋学会」の設立にも携わったことから、俳諧や浮世草子、国学の蔵書が多く含まれます。また、三重県松阪市射和の地蔵尊胎内から初期上方版子とも絵本（松阪市重要文化財指定）を発見したことや、大蔵書家、横山重（1896-1980）／中世日文学者）の薫陶を受けたことも、幅広いジャンルからなるコレクションの形成につながっています。

「岡本文庫」について

「岡本文庫」は、岡本聡（中部大学人文学部教授）の実父、岡本勝（1938-2007）「近世俳諧・愛知教育大学名誉教授」元中部大学人文学部教授が収集した、2000点を超える近世文学関連の古典籍からなるコレクションです。岡本勝は「芭蕉西鶴とその周辺」が自身の研究のテリトリーと公言し、本居宣長（1731-1801）や国学を対象とする「鈴屋学会」の設立にも携わったことから、俳諧や浮世草子、国学の蔵書が多く含まれます。また、三重県松阪市射和の地蔵尊胎内から初期上方版子とも絵本（松阪市重要文化財指定）を発見したことや、大蔵書家、横山重（1896-1980）／中世日文学者）の薫陶を受けたことも、幅広いジャンルからなるコレクションの形成につながっています。



「おくのほそ道」（元禄版本）



三千風筆「御仏の」和歌懐紙

其角堂永機筆 歌人等肖像画

展示会場では、俳諧の「連句」作りの仕組みを紹介する動画を放映します！

テーマ 「連句って何だろう？」

制作：中部大学人文学部・岡本 聡研究室

制作協力／中部大学日本伝統文化推進プロジェクト

井上徳之（中部大学 超伝導・持続可能エネルギー研究センター長 教授）

芭蕉七部集『猿蓑』所収の「市中は」歌仙（「歌仙」：連歌、俳諧の形式。長句と短句を交互に36句続けたもの）からとり、動画制作ツールを用いて、言葉が順に連なっていく様子を解説付きのアニメーション映像に仕上げました。（会場では、版本『猿蓑』（個人蔵）も展示）



中部大学民族資料博物館

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地（附属三浦記念図書館2階）

TEL 0568-51-9193 FAX 0568-51-9194

ホームページ <https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/> E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp

ACCESS

交通のご案内／
JR中央本線「神領」駅下車、
名鉄バス「中部大学前」
（約10分）下車すぐ

